

思考力・判断力・表現力を育成する ためのパフォーマンス課題と評価

大阪教育大学附属池田中学校 研究部（イケトーク発表）

1.思考力・判断力・表現力とは

2.それらを育成するためのパフォーマンス課題
とは

3.それらの評価

1. 思考力・判断力・表現力とは

思考力・判断力・表現力とは (学習指導要領総則)

- 社会や生活の中で直面するような未知の状況の中でも、その状況と自分との関わりを見つめて具体的に何をなすべきかを整理したり、その過程で既得の知識や技能をどのように活用し、必要となる新しい知識や技能をどのように得ればよいのかを考えたりするなどの力であり、変化が激しく予測困難な時代に向けてますますその重要性は高まっている。
- また「思考力，判断力，表現力等」を発揮することを通して、深い理解を伴う知識が習得され、それにより更に思考力，判断力，表現力等も高まるという相互の関係にあるものである。
- 学校教育法第30条第2項において、「思考力，判断力，表現力等」とは、「知識及び技能」を活用して課題を解決するために必要な力と規定されている。

思考力・判断力・表現力とは (学習指導要領総則)

- 物事の中から問題を見いだし，その問題を定義し解決の方向性を決定し，解決方法を探して計画を立て，結果を予測しながら実行し，振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
- 精査した情報を基に自分の考えを形成し，文章や発話によって表現したり，目的や場面，状況等に応じて互いの考えを適切に伝え合い，多様な考えを理解したり，集団としての考えを形成したりしていく過程
- 思いや考えを基に構想し，意味や価値を創造していく過程

2. 思考力・判断力・表現力を育成する パフォーマンス課題とは

評価の技法（評価方法）

（指導と評価の一体化，2020）

思考・判断・表現について

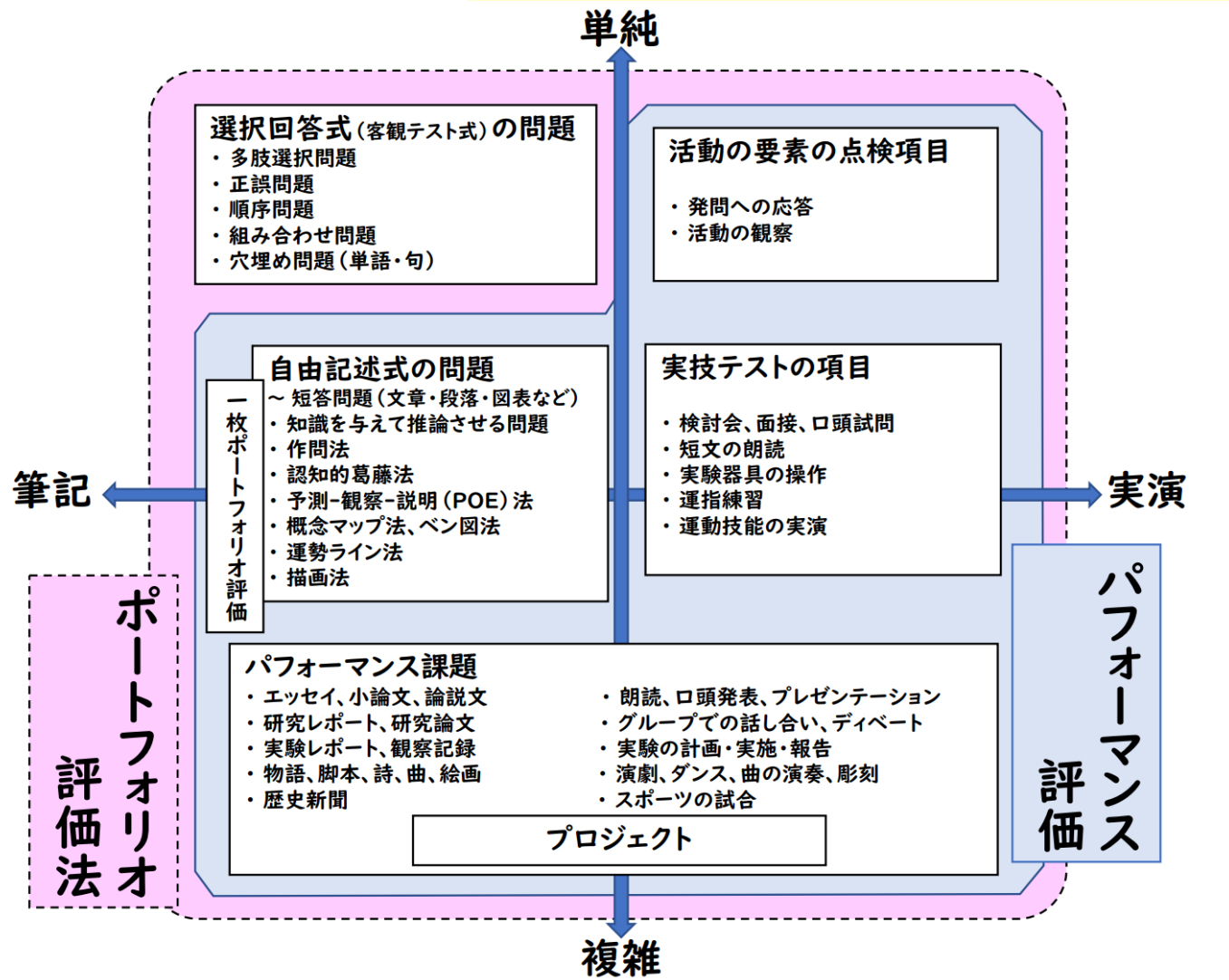
各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力，判断力，表現力等を身につけているかを評価する。

→ペーパーテストのみならず，論述やレポートの作成，作品の制作や表現等の活用，ポートフォリオ

パフォーマンス評価課題の推奨

- 資質・能力のバランスの取れた学習評価を行っていくためには、指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動に取り組ませるパフォーマンス評価などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である。さらには、総括的な評価のみならず、一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行い、子供たちの資質・能力がどのように伸びているかを、例えば、日々の記録やポートフォリオなどを通じて、子供たち自身が把握できるようにしていくことも考えられる。

(中央教育審議会「幼稚園、小学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」2016年12月21日)



論説文やレポート、
 展示物といった完成
 作品や、スピーチや
 プレゼンテーション、
 実験の実施といった、
 一連の実演のプロセ
 スの評価すること。

3. 思考力・判断力・表現力を育成する パフォーマンス課題の**評価**とは

真正な評価論 (ウィギンス, 1998)

- 明確に知らせている
- 一発勝負ではない
- 協働活動を含める
- 繰り返していい物
- フィードバック中心
- 必要性のあるもの
- 生徒の持っている知識やスキルを見せる機会
- 暗記の力だけではなく, 生徒の学び全体を測るもの
- 少しあいまいな問題やチャレンジを含む
- 生徒自身のリサーチを含む
- 必要なスキルや知識を評価する
- 自己評価を含む
- 生徒の強みを見つけて, できたことを評価する
- 生徒が課題の意味を感じられる

真正な評価論～逆向き設計～（ウィギンス）

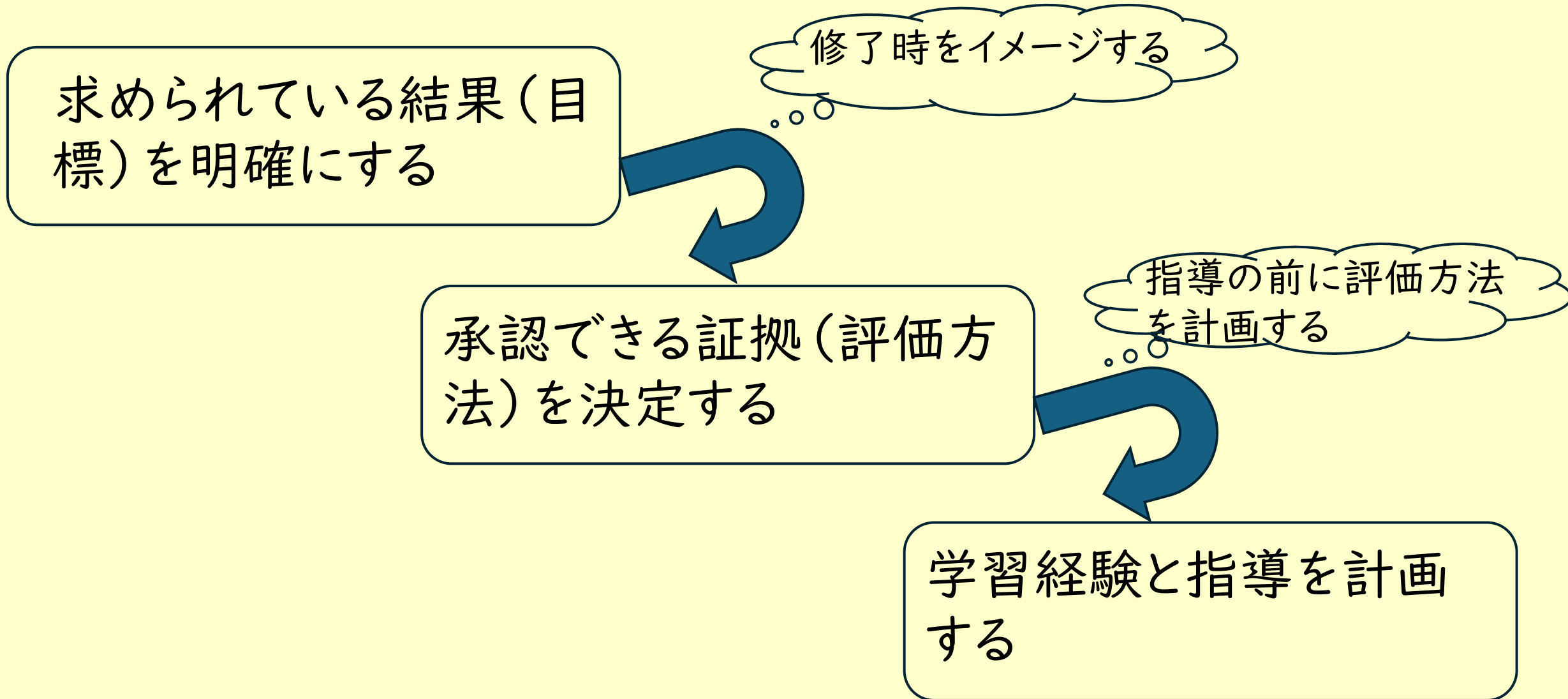
求められている結果（目標）を明確にする

修了時をイメージする

承認できる証拠（評価方法）を決定する

指導の前に評価方法を計画する

学習経験と指導を計画する



指導と評価の進め方（学習指導要領）

単元の目標を作成する



単元の評価基準を作成する



「指導と評価の計画」を作成する



授業を行う



観点ごとに総括する

パフォーマンス評価課題の設定の仕方

- **G** (ゴール) : あなたの課題は _____ です。
ゴールは _____ することです
- **R** (役割) : あなたは, _____ です。
- **A** (受け手) : あなたの依頼人は, _____ です。
対象となる相手は, _____ です。
- **S** (状況) : あなたは _____ という状況にいます。
- **P** (完成品) : あなたは, _____ するために _____ を創作します。
- **S** (成功を評価する規準) :
あなたの実演は _____ である必要があります。
_____ によって判断されます。

R, A, Sを入れることで

1. 真正性 authenticity 「リアルな課題になっているか」
2. 妥当性 validity 「測りたい学力に対応しているか」
3. レリヴァンス relevance 「児童・生徒の身に迫り, やる気を起こさせるような課題か」
4. レディネス readiness 「児童・生徒の手に届く課題か」

GRASPS例(本校中学2年数学科)

総括的評価課題 「地球温暖化は進んでいるのか？」

Goal 地球温暖化が進んでいるかどうかを複数のデータを元に結論づける

Role 環境保護活動家

Audience 一般市民

Situation 近年ニュース等でも地球温暖化が言われている。自分たちの調査結果を元に一般市民に向けて地球温暖化が進んでいるかどうかを説明する必要がある。

Product 地球温暖化調査報告書1枚

Standard 別資料あり

パフォーマンス課題におけるルーブリックの必要性

- ルーブリック

成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を記した記述語からなる評価基準表

提出用

	内容	到達度 1~2	到達度 3~4	到達度 5~6	到達度 7~8	評価
①	【Cii コミュニケーション】 適切な数学的表現の形式を用いて情報を提示することができる A:自分のカード	数学的表現の形式を限定的に用いて情報を提示する。PPDACサイクル1回目において箱ひげ図の形式を限定的に用いて気温の変化の様子を提示することができる。	数学的表現の形式を適切に用いて情報を十分に提示する。PPDACサイクル1回目において箱ひげ図の形式を適切に用いて気温の変化の様子を十分に提示することができる。	数学的表現の形式を通常は適切に用いて情報を正しく提示する。PPDACサイクル1回目において箱ひげ図の形式を通常は適切に用いて気温の変化の様子を正しく提示することができる。	数学的表現の形式を適切に用いて、常に情報を正しく提示する。PPDACサイクル1回目において箱ひげ図の形式を適切に用いて気温の変化の様子を正しく提示することができる。	
②	【Ciii コミュニケーション】 異なる数学的表現の形式の間を行き来することができる B:4枚選んだこと			異なる数学的表現の形式の間を、いくらか効果的に行き来することができる。 温暖化の進行について結論づけるためにいくらか効果的に4枚のカードを選ぶことができる。	異なる数学的表現の形式の間を効果的に行き来する。 温暖化の進行について結論づけるために効果的に4枚のカードを選ぶことができる。	
③	【Diii 実生活への数学の応用】 選択した数学的手法を効果的に応用して解決案に到達することができる C:結論	成果は限定的であるが、数学的手法を応用して、実生活の状況の解決方法を発見する。成果は限定的であるが、4枚のカードの内容を関連づけて考察できている、解決方法を発見することができる。	数学的手法を応用の状況に対する解る。4枚のカードの内容を考察できている、解ることができる。			
④	【Dv 実生活への数学の応用】 実生活の状況の文脈において解決策が理に適切であるかどうかを説明することができる。 D:足りない部分		実生活の状況の文脈が理に適切に詳しく述べる。 自分が出した結論の重要な部分や次なるPPDAC3回目へ取り組むべき内容ができてきている。			

地球温暖化 調査報告書

2年 組 番 名前

選んだカードA 貼る (日本)

選んだカードB 貼る (海外)

選んだカードC 貼る (その他)

選んだカードD 貼る (好きなもの)

B なぜこの4枚を選んだのか書く

C ●地球温暖化が進んでいるかどうかを考察する。それぞれのデータにおいて言えることを書く
4枚のカードを関連づけて結論付ける。
未来予想
何年後にはどのように気温が変化しているかを考えて書く。

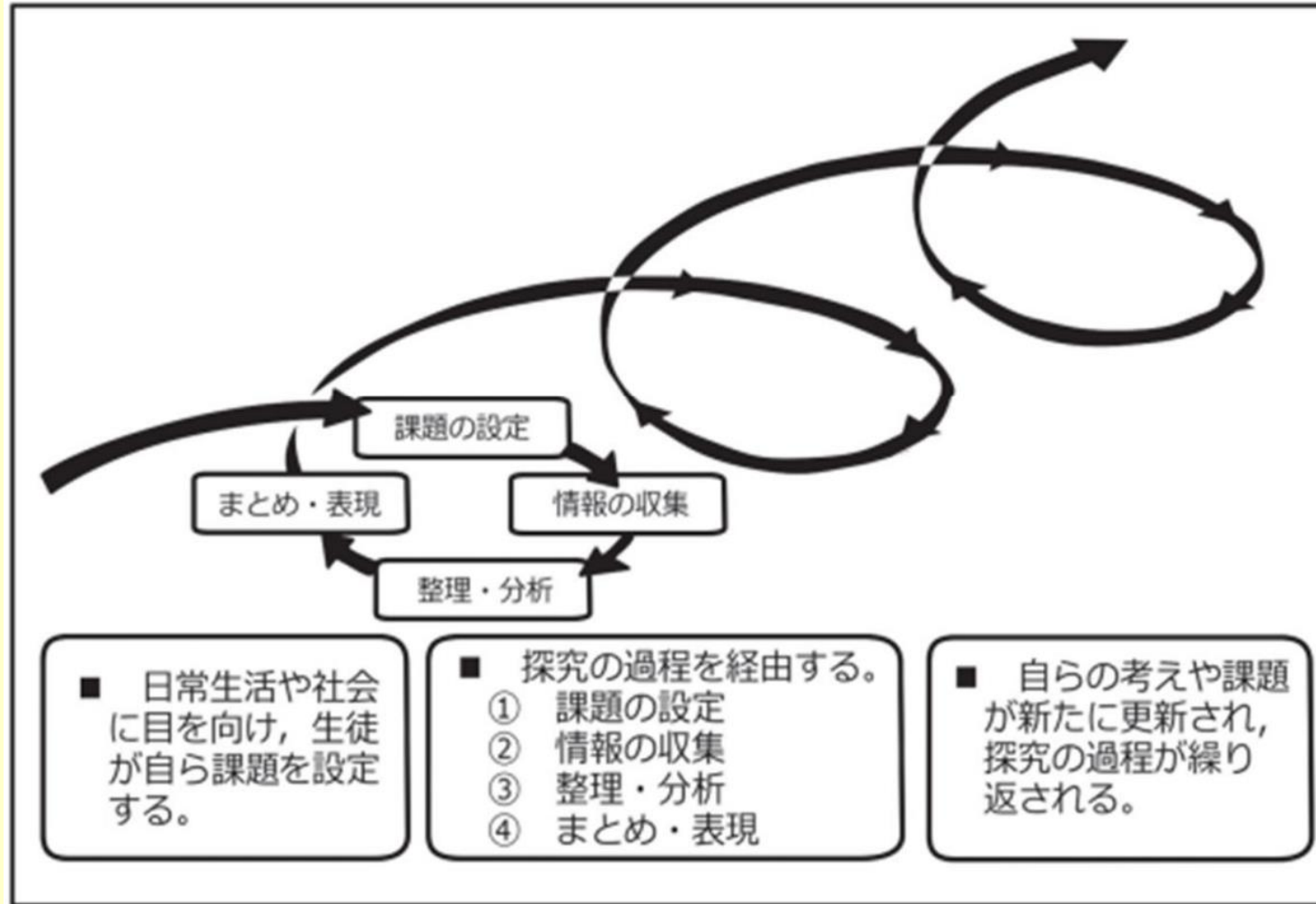
D 今回の調査において足りない部分やPPDAC3回目への展望をかく

自分の調査結果
PPDAC 1回目
ワークシート (統計-3)

地球温暖化が進んでいるかどうか、あなたの結論をここに書こう



最後に（探究的な学習における生徒の学習の姿）



参考文献

- ①文部科学省 「中学校学習指導要領解説 総則編」2017年
- ②文部科学省 「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」2017年
- ③中央教育審議会「幼稚園、小学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」2016年12月21日
- ④文部科学省国立教育政策研究所 「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」 2020年3月
- ④西岡加名恵『教科と総合学習のカリキュラム設計』2016
- ⑤Wiggins, Grant/ McTighe, Jay【著】/西岡 加名恵【訳】理解をもたらすカリキュラム設計—「逆向き設計」の理論と方法 2012